

東京バッハ合唱団 月報

[第588号] 2011年6月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax 専用：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.588

June 2011

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

5月15日(荻窪音楽祭)の熱演、ありがとうございました 《口短調ミサ曲》[後半]の日本語初演

小海 基 (荻窪教会牧師)

やはりレクチャーコンサートの魅力だと思いました。荻窪教会を埋め尽くした聴衆(聴衆と合唱団で150名は超えていました!)の中のかなりの方が《口短調ミサ曲》の後半のまさにクライマックス「平和をわれらに(ドナ・ノービス・パーチェム)」で、歌い出したからです。礼拝堂全体が歌声で満ちました。

《口短調ミサ曲》が日本語で歌われた衝撃

かつてカール・リヒターがミュンヘンバッハ合唱団を率いて来日した時、テノール独唱のヘフリガーが、合唱「ドナ・ノービス・パーチェム」を暗譜で歌っていたのを思い出しました。そのときと同じ感動の光景です。演奏会後、感想を告げるためになかなか散会しないで残っている聴衆の皆さんの中にも、《口短調》を原語で歌った経験のある人も多く、その難しさも良くわかった上で、日本語で歌われた衝撃を興奮気味に語っておられたのが印象的でした。私も今回歌ってみて感じたのですが、「クレド」の一つ一つの信仰告白の項目に、実にバッハが音符で細かなニュアンスを付けており、それは原語で聴いていたら気づかなかったかもしれないのに、日本語で歌われるとその場で伝わってくるという発見がありました。

後半だけではありましたが、日本語版《口短調ミサ曲》の世界初演が私の牧する荻窪教会という、カトリックではなくプロテスタントの、しかも礼拝は決して典礼的でない簡素な形で守っているカルヴァン系の礼拝堂でなされたことに、私は大きな意義と摂理のような思いを持っています。

教派の分裂も、信者・非信者の枠も超えて

《口短調ミサ曲》は、今風の言い方で言えばバッハの「ベスト盤」みたいな曲であり、バッハの理想の礼拝像を示している作品です。当時も今も、どの教派の礼拝にも収まるような物ではありません(キリエだけでも長すぎて収まりません)。もっとエキュメニカル(超教派というか究極の教会一致)な礼拝さえ超えているように思います。「サンクトゥス」なんかは、ヨハネの黙示録やイザヤ書6章に出てくる、ケルビムやセラフィムがパタパタ飛び交っている天上の礼拝をほうふつとさせています。もうそこに現れているのは、人間が歴史の中で刻んでき

た教派の分裂だとか、キリスト教信者であるとか無いとかいう区別さえ意味を持たない位の、究極の礼拝の風景だと思います。説教中心の、理屈っぽい、やや教条主義的でさえある我がカルヴァン派の礼拝堂が、全然違った物になったことに、私は牧師として本当に驚きました。バッハの示しているもっと普遍的な世界に比べ、人間の作り出した違いとか、プライドだとか、伝統だとか……といったもろもろが、如何にちっぽけなものであるかをつくづく感じさせられました。

今回は、フルオーケストラを入れられるスペースは無く、フルートとヴァイオリンとポジティブオルガンだけでしたが、それでも豊かな世界が十分に広がったのには驚きました。

年末の全曲初演が杉並の地でなされるのも、本当にうれしく思っています。[p.6に当日のアンケート回答]

筆者：小海 基(こかい・もとい)氏は、日本キリスト教団荻窪教会牧師。教団讃美歌委員、農村伝道神学校講師(礼拝学・教会音楽)。「こどもさんびか改訂版」「讃美歌21」の作曲・編集にも携わられました。

このたびは一団員として入団され、熱心に練習をかさねて出演なさいました。本年末の定期演奏会「《口短調ミサ曲》日本語演奏・初演」(12/3、杉並公会堂)に始まる「バッハ4大合唱曲」制覇に燃えていらっしゃいます。

なお、来る7月の創立記念懇親会(p.3に詳報)では、「バッハのエキュメニズム」と題して、卓話をご予定いただきました。



コンサート風景(第23回荻窪音楽祭にて、会場・荻窪教会)。
山田恵美子 Fl, 西川豪 Vn, 金澤亜希子 Org, 大村恵美子 Cond,
合唱・東京バッハ合唱団 [撮影・塩路憲雄氏(団員)]

バツ八合唱団をとりまく人々

[第 4 回]

大村 恵美子

前回にひきつづき、演奏関係で重要な方として、ほとんど毎定演に協演して下さるオルガンの草間美也子さんは、私個人の親しい友人としても、なくてはならない方です。美しく優雅でありながら、しかも始めから終わりまでステージを引っぱってゆかれる力強さに、私はまったく信頼して音楽を進めてゆくことができます。当合唱団の運営にも、いつも行き届いたご配慮を寄せてくださっています。

また、草間さんのアシスタントとして、定演のほか、毎回のヨーロッパ演奏旅行にも同行される武藤京子さんも、合唱団のパザーにご提供品をいつも用意してくださったり、あらゆる面でお世話になっています。

音楽家として私がとくに接して影響を受けることのできたヨーロッパ人指揮者では、ヘルムート・リリング氏を挙げねばなりません。日本での指揮者研修会のあと、シュトゥットガルトのバツ八アカデミーでも師事しました。1983 年の第 1 回ヨーロッパ演奏旅行の折には、同アカデミーに招待されて東京バツ八合唱団がモテットを演奏(そのときのマネジャーはケラー氏)、東京での公演で《マタイ》や《口短調》に合同参加させていただいたり、ゲヒンガーカントライとの来演中には、2 度も、経堂のカフェハウス・バツ八で両合唱団の交歓会(リリング氏が下見を兼ねて最初に朝食にいらした)等、活発な交流をさせていただきました。1988 年には、同行された H.J. エアハルト氏のオルガン独奏と私たちのモテット合唱を、東大教養学部でジョイント演奏しました。

また、マルティン・フレーミヒ氏も、私が 1982 年にヴィオラの松井啓子さんと東ドイツに初旅行した時、十字架合唱団(クロイツコア)のコンサートにご招待いただきました。その後の来日時には、東京の恵泉女学園高校で彼らとの合同演奏会、私たちの合唱練習もみていただいたりしました。

[この連載は、『東京バツ八合唱団 三十年の歴史』(1992 年刊)に登場する方々の、その後の交流をふくめてのご紹介という形で書き進めています。したがって、そこからは出ませんが、2000 年代に入ってから、松山バツ八合唱団との関係をとおして、フライブルク・バツ八合唱団の H.J. ボイアーレ氏とも知己を得て、指導を仰いだり、2008 年には思いがけなくフライブルク大聖堂のミサにおける演奏までご推薦いただくことになりました。]

第 2 回から 4 回のドイツ巡演は、ベルリンのグンドルフ・アンメ(2004 年歿)牧師の手厚いおもてなしとご配

慮によるものでしたが、そのきっかけは、松山与志雄牧師の東ベルリンでのアンメ牧師との交流の中で、当合唱団を紹介いただいたことから始まったのでした。アンメ牧師ご夫妻との数回にわたる、ドイツ・日本両地での懐かしい思い出は、合唱団の長い歴史の中でも、ひときわ輝くものでした。

(南吉衛牧師は、アンメ牧師と始めから関係が深く、私たちのドイツ巡演にも早くから関わっておられましたが、とくに東西ドイツ統一後から本格的に私たちとの親交が加わったので、『三十年の歴史』には、まだお名前が登場していません。)

アンメ牧師ご夫妻
(ご自宅にて)



草間美也子さん(オルガニスト)



[お詫びと訂正] 当連載の前回(5月号月報[第 587 号], 2 ページ)の「写真(上)」で、前列左 2 番目を「草間美也子さん(オルガン)」としたのは、「成瀬かおりさん(ヴィオラ)」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

野尻湖合宿 & 湖畔のチャペルコンサート

<合宿> 8月5日(金)~7日(日)
[宿泊先] 野尻湖レイクサイドホテル(旧・野尻湖ハウス)
<http://www.lakeside-h.com/index.html>
<演奏会> 8月6日(土) 16:00 開演、入場無料
(先月号での 15:00 開演は、上記に変更します)
[会場] 神山教会(NLA オーディトリウム)
[曲目] 《口短調ミサ曲》より抜粋、
カンタータ第 71 番《主はわが君》、ほか
[出演] 内山亜希(ピアノ)、東京バツ八合唱団(合唱)
大村恵美子(指揮/訳詞)

第 106 回定期演奏会(創立 50 周年記念企画 1)

《口短調ミサ曲》日本語演奏 [初演]

[日時] 2011 年 12 月 3 日(土) 14:00 開演

[会場] 杉並公会堂(東京・荻窪)

[出演]

光野孝子(ソプラノ)、佐々木まり子(アルト)

鏡 貴之(テノール)、新見準平(バス)

東京カンタータ室内管弦楽団(オーケストラ)

草間美也子(オルガン)、東京バツ八合唱団(合唱)

大村恵美子(指揮/訳詞)

[チケット] 前売券 3500 円・当日券 4000 円(全席自由)

[チケット発売] 2011 年 7 月 1 日

東京バッハ合唱団 創立 49 周年記念懇親会

< 記念卓話 >

小海 基氏 (日本キリスト教団 荻窪教会牧師) 「バッハのエキュメニズム(*)」

- < 日時 > 2011 年 7 月 4 日 (月) 午後 6 時 30 分 - 9 時
- < 会場 > 目白聖公会 (合唱団の月曜練習場)
- < 卓話 > 小海 基氏 (p.1 に文章とご紹介)
- < 会費 > 1500 円 (軽飲食代ふくむ。当日受付)
ミニバザー併催

1962 年 7 月 1 日に発足した当合唱団の創立記念祝会は、毎年欠かさず、この日の前後に催され、ゲストの方による講演・座談・演奏などをふくめて、日ごろ顔を合わせる機会の少ない、コンサート聴衆の皆さま、団友、後援会員の方々と、わたしたち団員との、懇親・交流の場となってきました。ご存知のとおり、来年のこの会は、創立 50 周年の節目を盛大にお祝いする予定です。

ご愛顧・ご支援くださる皆さまと、団員をむすぶ貴重な懇親の機会です。どなたでもご参加いただけます。初めての方も、ぜひお気軽にお出ください。

ミニバザーへのご出品、懇親会への差し入れ歓迎!

ご参加の方には、記念冊子『「口短調ミサ曲」演奏と鑑賞の手引き』(大村恵美子、20 頁)を贈呈いたします。

なお、準備の都合上、6 月中にご予約をお願いします。

【申し込み先】東京バッハ合唱団事務局

郵送：〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101

FAX：03-3290-5732 (専用)

Email：bachchortokyo@aol.com (Bach Chor Tokyo)

電話：03-3290-5731



[写真 目白聖公会] 今回の会場は、半世紀近くの長きにわたり、私どもが普段の練習場として使わせていただいている目白聖公会の集会場です。敷地内には練習の折々にお顔をお出しくくださった、故・辻莊一先生(わが国バッハ学の泰斗、団創立当初の顧問)の思い出の残る礼拝堂があります。

[会場の地図] JR 山手線「目白駅」下車徒歩 5 分



新宿方面

(*) エキュメニズムとは?

キリスト教の教派を超えた結束を目指す主義、教会一致促進運動。世界教会主義ともいう。転じて、キリスト教相互のみならず、より広くキリスト教を含む、ユダヤ教、イスラム教、仏教など、諸宗教間の対話をうながす運動をも指すこともある。

参加申込書 (締め切り 6 月 30 日)

7 月 4 日 (月) の「創立 49 周年懇親会」に参加出席します。

芳名： _____

住所：(〒 _____) _____

連絡先：電話番号 _____ / メールアドレス _____

原発事故の「核」汚染を誰が止める？

大村 恵美子

魔の3月11日以来、日本の空気はすっかり変わり、3か月を迎えようとする今でも、重苦しく心安まらぬ日々がつづいている。

そのさなかの5月15日に行なわれた私たちの特別演奏会、「バッハ《口短調ミサ曲》を日本語で歌う」(荻窪音楽祭参加)は、団員が緊張感をもって準備にのぞみ、共感いっぱいの聴衆を得て、上々の成果をあげることができた。国運のまさに大きな分岐点に立つこの現在、私たちは、これに弾みをつけられて、はっきりと歩を前に踏み出そう。

長い間、失われた10年、15年、20年などと称されつづけて、みずからもイジイジとうつむき加減に過ごす人たちの多かった日本は、なぜこのような重い試練を蒙ったのだろうか。私はこう考える。

敗戦後、勝ち誇ったアメリカの前に、すべてを失いつくした政府は、卑屈にも、ただ服従するだけとなった。アメリカの都合によって、彼らに利用できる場合には戦争犯罪人も指導者に据え変えられ、また朝鮮、ヴェトナム、世界中いたるところ、アメリカの仕掛け、ひき起こす戦争につき従い、そのたびに甘い汁を吸わせてもらった。戦後10年も経ずに画策のはじまった、わが国の原子力政策も、もとをたどれば同じ利権と同じ主人(アメリカ)に行き着くはずである。原発をつくってプルトニウムを供給しつづけると要求されれば、危険極まりない命とりの施設を、地震列島の海岸線にびっしりと50数か所も敷きつめた。

2度も核被爆でやられた国が、こんどは大丈夫、平和利用だからという甘言で、その同じ毒を承知で飲み込んでしまった。かくも浅はかな自己欺瞞にもあえて乗り出す戦後のわれわれが、母なる大地にこっぴどくどやされたのである。いつ目を覚ますのかと。

属国に甘んじてぶくぶく肥える政権に、異をとねる側の野党勢力は、カネの威力につぶされて年々少数派となってゆき、いまやオール与党、司法さえも寄らば大樹の風見鶏になりさがったままだ。

東京に住んで「母なる大地にこっぴどくどやされ…」と書いている私は、夏は福島原発のおかげでエアコンのお世話になり、冬季にもたっぴりと日照にめぐまれ、一方ではこの国の半分を占めて、数か月間も雪に閉じこめられる地域の人々に、天気予報を聞くたびに、何という不公平かと、いつも申しわけない気持ちになっていた。

このさい、はっきりと行動を起こして、みんなで日本を変えてゆこう。東京の一極集中を大きく解体し、首都機能をひろく分散させて、ただ格差是正にとどまらず、積極的に、東京に密集した人口も経済も、他に注ぎ込んでゆくのだ。

いま、沖縄のひとびとのことも決して忘れないようにしよう。アメリカ政府には、民の要求をストレートにどンドン突きつけ、すべての悪法を指摘改善させ、自分のご主人様だけに忠義をつくす<武士道>を解き放ってゆく。えせ民主主義国家から、実質的に自立した民主国家へと脱皮しよう。

人命をうばって、消せない毒を未来永劫にわたって地球に残す原発をかなぐり捨て、清い水と空、陸と海をこちらに取り戻し、深呼吸のもとに生まれる、実のある精神文化を尊び、うちたててゆこう。(主宰者)

[PR]

大村恵美子・大村健二...編 「バッハ コラール・ハンドブック」

発行：春秋社
体裁：A5判 / 400頁
定価：2940円(税込み)

合唱団関係者・月報読者の皆さまには、割引価格でお届けいたします。
特価：2500円
送料：300円(郵便振替用紙同封します。後日、郵便局でご清算ください)
事務局へお申し込みください(申込み先：月報タイトル囲みご参照)



どうぞみなさま、東北のためにお祈りください

佐々木 まり子（団友・声楽家、盛岡在住）

今日であの大震災から2か月。みちのくの桜もゴールデンウィークの終了とともに葉桜となり、満開の桜の薄ピンクも、美しさと寂しさがあいまってこころを慰めてくれました。今回の震災を、やっとこのごろ、将来に結びつけて考えられるようになってきた気がします。

突然消えてしまった人々の姿、さっきまで一緒だったのに失われた命、あんなに美しく自然の雄大さを満喫させてくれていたリアス式海岸の町々の変貌……、内陸の盛岡は被害は無いものの、同じ岩手県民として、ただただおろおろするばかりでした。全ての根幹が、地震と津波によって破壊しつくされ、生活の基盤も失われ、何より愛する家族を亡くし、言葉を失うということを初めて経験したように思います。

しかし、テレビや新聞でインタビューに答える人々は、みなさん、「私より大変なひとはいっぱいいるから……」と語っていらっしやいました。

また「なーに、あのチリ地震からも這い上がったんだ。今回もやるっきゃないよ」と答える年配の漁師さんの瞳は、この過酷な運命を受け入れ、その上で希望を持つと自分と言いつつ聞かせているかのようで、その姿に、圧倒される思いでした。

希望は失望に終わることがありません。

私たちは四方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。倒されますが、滅びません。

これらの聖書のみ言葉は、あたかも、大自然の猛威と関わりながら生きてきたその漁師さんが、自然から学びつつ、まさにその口から発せられたもののように思われなくなりません。

岩手は、やっとみんな、前を向いていこうと視線が一致してきたように思います。子どもたちの、不便な中での学校開始、小さな一歩でも自分らしく前の職業をスタートさせる人、今後の長い長い道のりを復興に向けて歩まなければなりません。どうぞ皆様、東北のために、お祈りください。（5月11日）

まり子さま

さっそくに、お心こもるお便りをありがとうございました。5月15日の荻窪音楽祭のコンサートでは、母の日にカーネーションをあげようとしていた子、受け取るはずだった親、どちらかが、または両者が消えてしまったことを思い、出演者全員が白カーネーション（団員手づくりの造花です）を胸につけて歌うことにしました。「平和をわれらに」（《口短調ミサ曲》終曲）と、悲しげなく、しっかりと歌いたいと思っています。（大村恵美子）

西川 豪 ヴァイオリン・リサイタル

2011年4月27日、津田ホール

[共演] ジェラルド・プーレ（ヴァイオリン）

川島余里（ピアノ）

ベートーヴェン：Vn ソナタ 第10番 ト長調

プロコフィエフ：2つのVnのためのソナタ 八長調

グリーグ：Vn ソナタ第3番 八短調 など

リサイタル終了後の挨拶より

今夜は、このような状況のなか、私の演奏会にお越しください本当に有難うございます。

3月11日の地震が起きたとき、私は川崎市にあるオーケストラの練習場でヴァイオリンを持っていました。突然、凄い揺れが起こり、慌ててケースにしまい、ケースをかかえて外に出ました。何度もつづく強い揺れで、大変なことが起きていると、不安が頭をよぎりました。

その日は、長い時間かけてようやく帰宅することができましたが、TV ニュースで、大地震・大津波により壊滅的被害がでていることがわかり、自然の脅威を知ることになりました。日が経つにつれて被災地の状況が伝わり、数日すると原子力発電所の問題も出てきました。

そんな中で、自分には何ができるのだろうと、無力感を感じながら悩みました。そのうち、自分は演奏する者として、こんな傷ついた時こそ音楽は必要だ、とっていただける演奏をしたい、と考えるようになりました。

私は4歳のとき、心臓の手術を受けていますが、その時の執刀医のK先生は、今年1月、東京の病院から岩手県宮古市の県立病院に赴任され、その2か月後に当地で被災されることになりました。その後、K先生からのお手紙でご無事がわかり、私は安堵しましたが、同時に多くの犠牲者のことも身近に知ることになりました。

私にとって命の恩人であるK先生は、以前から「音楽は生きていく人々にとって、絶対必要なものだから頑張れ！」といつもエールを送ってくださっていました。その先生が現在、宮古で被災者のために懸命に医療に尽くしておられる。そのことは、私にとって大変心強い後押しとなりました。

最後に、本日私のために共演して下さったジェラルド・プーレ先生、いままでお世話になった先生方、また本日このような状況のもとコンサートにお越しいただいた皆様に、心より感謝し、お礼を申し上げたいと思います。（4月27日、西川 豪）

このコンサートは、聴衆に、心暖まる感動を与えてくれました。プーレ氏と西川さんの師弟愛、聴衆との交流、東日本の苦悩を反映して、重苦しい空気のたちこめたこの東京で、人間のしあわせを、身をもって味わわせられた、すばらしいひと時でした。（大村恵美子）

ワークショップ & コンサート

「バッハ《口短調ミサ曲》を日本語で歌う」

<会場アンケートより>

ワークショップについて

- ・やさしく、詳しく教えてくださりありがとうございました。もう少し時間がとれるとよろしいですね。
- ・バッハの合唱体験がしくて参加したのに、実際に合唱を体験する時間がとても短かったのが残念だった。ワークショップと書いてあったので、「体験」ができると思いましたが、時間がなくて残念でした。
- ・もうちょっと歌ってみたいかった。ハモるところが楽しかった。もっとうたってみてみたい。
- ・内容はとても興味があってよい企画だったと思います。時間がなくて残念でした。
- ・初体験でしたが、たいへん良かったです。
- ・勉強になりました。(初めての経験でした)
- ・細やかな説明と、バッハの曲を練習させていただき、ラストの曲がとても身近に感じられステキでした。
- ・とても良かった。また参加できたらいいな!
- ・曲の成り立ちがわかり、よかった。
- ・なぜ日本語なのか、もう少し深く解説していただき良かった。ルターとの関連、パロディ、etc.....
- ・とてもおもしろかったです。バッハについて興味がわいてきました。
- ・バッハの音楽の作り方など、よくわかりました。(帰宅したら、改めてすこし勉強しなくてはと思いました)

日本語による演奏について

- ・とてもとても嬉しい。意味が解かりながら聞けることは、一番の恵みです。
- ・思いがこもっていて良かった。母国語だから余計?
- ・初めて聴きました。外国語ですと意味もわからず歌っていることがありますが、日本語で Bach を歌うのは大村先生の東京バッハ合唱団ならではの試みですね。
- ・大曲、すばらしい演奏でした。
- ・せっかくの日本語、もっとハッキリ伝わってくれば、さらに良かったでしょう。ちょっと残念に思いました。
- ・最高です。ぜひまたお願いします。今こそ、平和を!
- ・日本語で歌っても違和感がない。ソロの曲を演奏したのは良い。フルートも良かった。
- ・《口短調ミサ曲》、大曲だと思った。フルートが良かった。聞くのではなく、歌ってみたくなった。
- ・バッハを日本語で歌うのもよいものだと思います。12月3日は聴きにいくつもりです。すばらしかった/椅子がかたいので、途中で休憩がほしいです。
- ・素晴らしかったです。日本語でうたうのもすてきだと思いました。ありがとうございました。
- ・楽しく聴かせて頂きました。フルート、ヴァイオリン、オルガン、すばらしかった。

【終了ご報告】

ワークショップ & コンサート [第23回荻窪音楽祭参加]
「バッハ《口短調ミサ曲》を日本語で歌う」

<日時> 2011年5月15日(日) 15時

<会場> 日本キリスト教団 荻窪教会

[第1部] ワークショップ

“バッハの合唱体験、ドイツ語? ラテン語? ニホン語?”

[第2部] コンサート “《口短調ミサ曲》より”

ニケア信経、聖なるかな、ホサンナ・幸なり・小羊・平和をわれらに

<出演>

フルート: 山田恵美子

ヴァイオリン: 西川 豪

オルガン: 金澤亜希子

合唱: 東京バッハ合唱団

指揮/訳詞: 大村恵美子

・日本語の迫力と、ひびきの美しさに、とても感動しました。すばらしい合唱と、また伴奏のアンサンブルの精妙さに、打たれました。

・日本語によるバッハを初めて聴きました。私はクリスチャンではありませんが、聖書を少し勉強したことがあるので、日本語で歌っていただくことによって、意味が解り易く、「へえー、バッハの曲についている詞(作詞もバッハ?)って、聖書の内容そのものなのね!」と、以前よりバッハに親しみを覚えました。ありがとうございました。

この企画を何でお知りになりましたか?

知人/友人から誘われた	5
当合唱団から案内が来た	1
「荻窪音楽祭ガイド」を見た	5
荻窪教会(会場)で入場整理券購入	2
他の教会でチラシを入手	0
インターネットで	3
その他	0

(アンケート回答数: 17)



ワークショップ風景。お客様全員の手元に《口短調ミサ曲》終曲「平和をわれらに」(Dona nobis pacem)の旋律楽譜が配られ、パロディ原曲(BWV29)のドイツ語、ミサ曲のラテン語、日本語訳詞の、それぞれで冒頭フーガを歌ってみた[撮影: 千葉光雄氏(団員)]
<p.1に コンサート風景>